



装甲車を中心に 群衆に解散を呼びかける警官隊 (西成署付近で3日午後10時ごろ)

毎日4日朝刊

の本頭を發揮、暴徒をけ散らした。装甲車が暴徒の前面に現われたのは午後九時四十分。投光器をあて再三解散を警告したが暴徒ははぎとったカンパンや板切れを燃やし投石して氣勢を上げ、いっこうにひく気配を見せない。ついに十時「ただいまから実力を行使します」と通告すると同時に装甲車はエンジンの音をひびかせて突進、あとに続く警官隊約五百人は警棒をふり上げかん声とともに襲いかかった。これに恐れをなした暴徒はクモの子を散らすように逃げまわり、一部の逃げおくれたものが戸を閉め切った両側の商店の軒下に身をかがめているのに警官隊はようしやなく警棒の雨を降らせた。

頭から血をふいてのけぞるステコ姿の男、死んだように路上に気絶した人夫風の男、髪を血だらけにして放心状態の中年女など。警官隊はさらに四方八方から暴徒をとりかこみ、くつで腰をける、倒れた男の背中を踏みつける。またこわれたヘイを乗り越えて袋小路に追いつめ、ようしやなくたたきのめした。

(読売四日朝刊)

〔十時五分〕「暴徒がアパートに火をつけたので病気の子供ばかり五人を連れてやっと逃げてきた」と西成区海道町二、伊波荘アパート内、無職西口時男さん(28)は訴え、玄関横のイスにみんな

であった予備マクラ木にガソリンをかけて火をつけたが、同駅に待機中の警官隊が消火にあたりマクラ木三本をこがしただけで消しとめた。

(読売四日朝刊)

〔九時四十五分〕阪堺線今池駅北約五十メートルの線路上で二人の男が枕木にガソリンをかけて放火その場で警官隊につかまった。続いて、そこから二十メートルの線路上にガソリンがまかれ火がつけられた。警官約百人が現場へ向ったが暴徒は石の雨を降らせて警官の行く手をはばみ、火は燃え広がって約十メートル四方が火の海となったがまもなく消しとめられた。

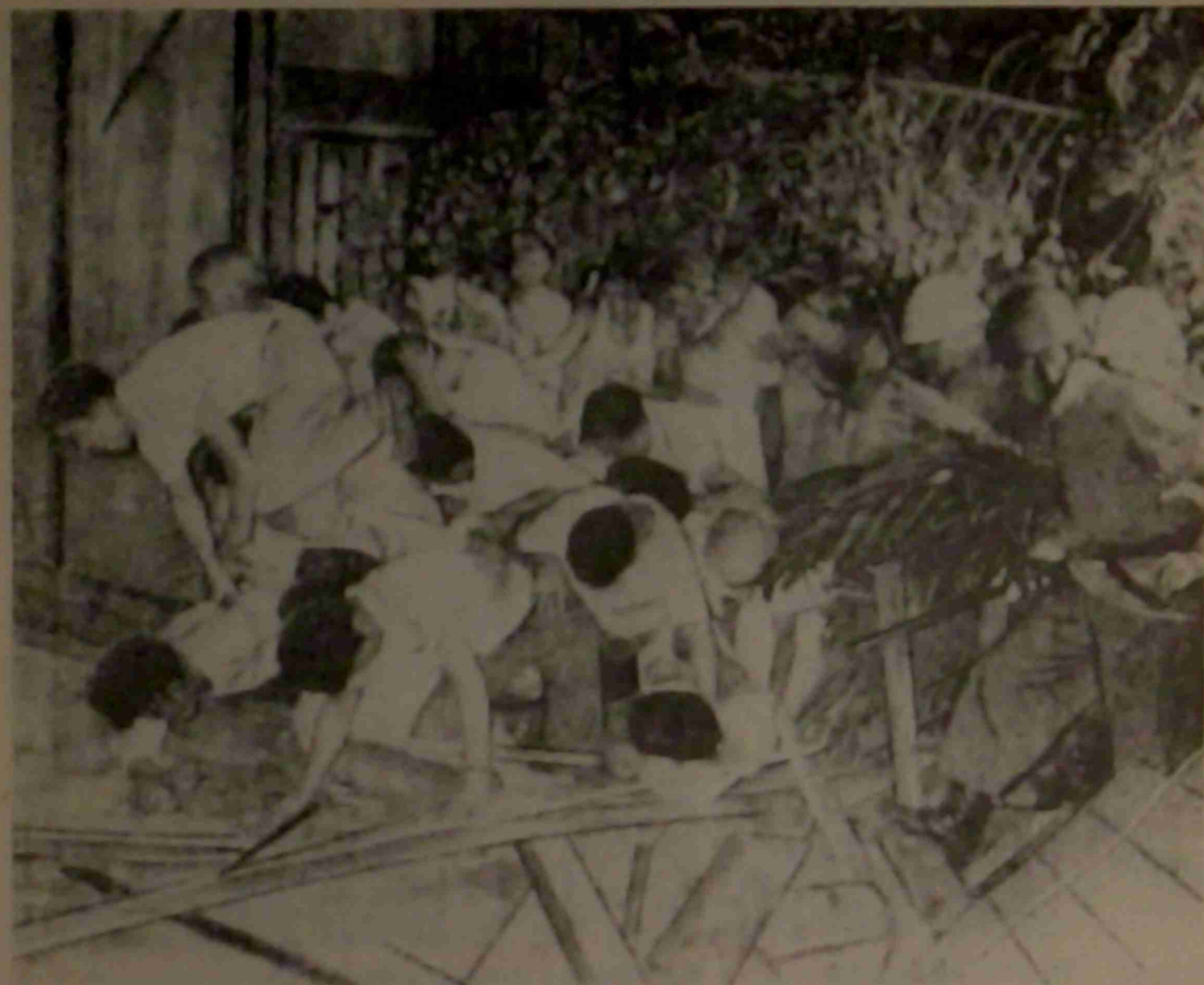
(毎日四日朝刊)

〔九時五十分〕暴徒の一部が逃げながら路上のタキ火をひろって西成区海道町二、伊波荘アパートの玄関に投げこんだ。かけつけた警官隊といあわせた住民がすぐ消しとめた。この放火におびえた同アパート三十二世帯約百人のうち半数が家財をまとめてアパートを抜けだし知りあいの家などにのがれた。

(読売四日朝刊)

流血の暴徒制圧 / 逆に投石、警棒の雨

〔十時〕警官隊は西成署前通りの商店街で、武力制圧



へタヘタとすわり込んだ。ところがそばの警備本部の入口を固めていた私服警官三人が西口を突きとばし「子どもを外につれ出せ」と子どもを抱いた母親たちを表に押し出した。子どもはおびえてすがりつく。見かねた記者団が間にはいってとめたが、この人たちはその間に「どこにも行くところがないから助けを求めてきたのにこれが日本の警察か」とニラみつけながら投石の続く深夜の町へ消えて行った。

(読売四日朝刊)

午後十時を期して行われた実力行使は西成事件はじまって以来最もはげしいものだった。住吉街道から装甲車を先頭に北へ向う一隊と阪堺線今池駅を遠回りして東から包んだ別動隊、東田町方面にいた一隊、計五百人が三方面から集中攻撃した。

(毎日四日朝刊)

◇中林進君

二日間しんぼうして、三日目にはおろから放たれたライオンのごとく実に実力行使のこれまた興奮状態であったと思います。しかし、一日、二日、そうして本部長の判

定で三日の段階で押えなければ鎮圧するところが不可能であった、むしろやむを得ない状態であったというお答えなのですが、さりとて無差別に実力行使してよいのか。

たとえばそれが今まで石を投げておった暴徒であったとしても、うしろを見せたときは無抵抗の形です。その無抵抗の形の中で、今まで石を投げられた警察官は、同僚を傷つけられたかたきをとってやれということがありありと現われている。であってよいのかという点をお尋ねしているわけです。

◇警備部長(日原正雄君)

あの地区の特殊性からしまして、暴徒は不法行為をいたしますと、直ちに一般見物人を装うし、見物人も機会さえあれば暴徒となる、こういう状態で、暴徒と見物人が入りまざっているがために、根こそぎ検挙する、あるいは解散させるということが不可能な状態にあったわけでありませう。三日目の実力行使は、警察といたしましては他に方法がない、このままほっておけばさらに暴動は大きくなり、そうかといってほって

おけない、強力な実力行使をせざるを得ないという状態に追い込まれたという意味で、やむを得ない実力行使であったと考えておるのであります。

☆三六年九月大阪府議会警察常任委員会会議録より

〔十時十五分〕 群衆がどっと市電霞町車庫付近に流れ込み危険となったので、市電は日本橋三―アベノ橋間をストップした。(朝日四日朝刊)

〔四日午前〇時五〇分〕 再び阪堺線今池駅周辺に約五〇〇名の群衆が集まり、駅のガラス戸等に投石しはじめ、さらに西成消防署今池出張所前に移動し、警備部隊に投石したが、午前一時過ぎ実力行使により解散した。資料

(資料②)

午前一時頃までに大部分の者は解散したが、なお一部は霞町駅、飛田本通、東田町附近一帯にたむろし、その数は約一〇〇〇名をかぞえた。そのため、引き続き警備部隊の集団警らを実施し……

(資料①)

〔一時〕 阪堺線今池駅周辺に約二百人の群衆が集まり、一部が負傷者輸送のバトカーや今池駅舎に投石をはじめ

たので西成署周辺の警官隊が出動、解散させた。

(朝日四日朝刊)

― 集った群衆も警官の相次ぐ突入で半数が姿を消し、残りのものはるかに遠まきにして眺めるだけ。

(読売四日朝刊)

(二時) 騒ぎもやっとおさまり、ほぼ鎮圧の形となった。

(読売四日朝刊)

(三時) 完全に平静となる。

(五時三十分) 仕事に向う人夫たちがぞろぞろ町へ出始めた。その間を、手配師らしい連中が動き回り、人夫を集めては待たせてある白タクやオート三輪に連れ込んだ。みななにごともなかったかのようなケロツとした表情。付近の商店もポツポツ店を開きはじめ、店の表にはりめぐらした投石よけの板囲いを金ツチでたたきはずす音が早朝の町にこだましていた。(朝日四日夕刊)

(十時)

大阪地検、一日の逮捕者のうち一九人を勾留請求。橋本検事正、検挙者の処分を厳しく行う旨記者会見。大西検事ら現場検証。大阪府公安委員会、異例の公告を行う。

行。

(十二時)

中井大阪市長記者会見。

安井国家公安委員長、閣議で釜ヶ崎事件について徹底検挙の方針を述べ了承される。田中万一最高検刑事部長を現地派遣。

☆ 警察側損害

○ 機動配属の無線車

正面ガラス破損、ボデー二ヶ所へこみ

☆ 負傷者

○ 警察官 二八三名(入院一名)

○ 一般人 八二名(うち報道関係六名)

○ 消防士 四名

計 三六九名

☆ 逮捕者 一九名

(注) 資料①は昭和三六年八月九日警察庁作成の「西成

集団暴力事件の概要」と題されるもの。

資料②はガリ版刷B5版十三頁の無題のもの。ど

の官庁作成か不明。